

○津波の高さ表現と津波警報における表現の対応表（現状及び改善案）

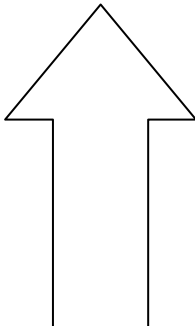
資料12

津波の高さ表現と津波警報における表現の対応表（現状）

津波の高さ表現	分類	津波被害の程度	警報等とハザードマップの対応関係	発表例
10 m以上	津波警報（大津波）	木造家屋が全壊、流失。 （津波が高い場合、コンクリート建造物も基礎がしっかりしていないものは転倒のおそれ。）	ハザードマップが整備されている自治体もあるが、その多くは既往最大の津波を想定している。津波の程度に応じた複数のハザードマップを用意している自治体もあるが、まだ事例は少ない。	【見出し】大津波・津波の津波警報を発表しました これらの沿岸では、直ちに安全な場所へ避難してください なお、これ以外に津波注意報を発表している沿岸があります 【本文】 津波警報を発表した沿岸は次のとおりです ＜大津波＞ 予報区名 ＜津波＞ 予報区名 これらの沿岸では、直ちに安全な場所へ避難してください 津波注意報を発表した沿岸は次のとおりです ＜津波注意＞ 予報区名 以下の沿岸（上記の＊印で示した沿岸）では直ちに津波が来襲すると予想されます 岩手県 【解説】 ＜大津波の津波警報＞ 高いところで3 m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください ＜津波の津波警報＞ 高いところで2 m程度の津波が予想されますので、警戒してください ＜津波注意報＞ 高いところで0.5 m程度の津波が予想されますので、注意してください
8 m				
6 m				
4 m				
3 m	津波警報（津波）	木造家屋が全壊。居住区域が浸水、津波による流れに巻き込まれるおそれ		大津波に関する記載がないことを除けば上記に同じ
2 m				
1 m				
0.5 m	津波注意報	海中にいる人が流れに巻き込まれる。養殖筏の流出、小型船舶の転覆など	—	【見出し】津波注意報を発表しました 【本文】津波注意報を発表した沿岸は次のとおりです 【解説】高いところで0.5 m程度の津波が予想されますので、注意してください。

「津波警報の発表基準等と情報文のあり方に関する検討会」第1回資料より

津波の高さ表現と津波警報における表現の対応表（改善案）

津波の高さ表現 （＜＞内は居住区域で推測される浸水深の最大値）		分類	津波被害の程度	警報等とハザードマップの対応関係	発表例
10m以上（10m以上） ＜浸水深9m以上＞	両者の対応関係は現時点では未確定	大津波警報	基礎がしっかりしていないコンクリート建造物は転倒のおそれ。 木造家屋が全壊・流失	 予想される高さに応じたハザードマップの整備	発表例については「津波警報の発表基準等と情報文のあり方に関する検討会」で検討中
10m（5～10m） ＜浸水深9m＞			基礎がしっかりしていないコンクリート建造物は転倒のおそれ。 木造家屋が全壊・流失		
5m（3～5m） ＜浸水深4m＞			木造家屋が全壊・流失		
3m（1～3m） ＜浸水深2m＞		津波警報	居住区域が浸水、津波による流れに巻き込まれるおそれ		
0.5m（1m未満）		津波注意報	海中にいる人が流れに巻き込まれる。養殖筏の流出、小型船舶の転覆など （堤外では浸水のおそれ？）		

津波の高さ表現と警報の分類の対応関係は未確定であるが、この確定を待たずに情報表現を検討することは可能。「津波の高さ」については、津波被害の調査結果が浸水深に基づいていることを考慮し、将来のことも考えて少なくとも TP を基準に整理する。